

都道府県番号	学校名 目黒区立中目黒小学校（外 16校）	R1～R5
--------	-----------------------	-------

## 令和5年度研究開発自己評価書

### I 研究開発の内容

#### 【研究開発の概要】

全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの充実を図ることができるよう、標準授業時数にプラスすることなく「時間」という限られた資源を効果的に活用する。

- ① 学校教育法施行規則第51条別表第1によらず1単位時間を40分としても、創意工夫ある教育課程の編成及び指導内容の精選・重点化を図ることで学力は維持、向上できることを示し、学校の実態により1単位時間40分（40分×1015コマ）を選択して教育課程を編成することが可能であることを提言する。
- ② 40分授業にしたことによる残りの5分間をまとめて生み出した時間とし、個に応じた指導や協働的な活動等の特色ある教育活動、教員のための裁量の時間等に活用する。このことにより、学校独自の創意工夫ある教育課程の編成及び教員の資質向上と働き方改革の一層の推進が可能であることを示す。
- ③ 次期学習指導要領における1単位時間40分の実施に向けて、全国のどの学校においても教育課程を編成できるよう導入モデルを示す。

### 1 教育課程

#### （1）編成した教育課程の特徴

学校教育法施行規則第51条別表第1では、1単位時間を45分とした授業時数を定めているが、本研究では1単位時間を40分（40分×1015コマ）とする。40分授業にしたことによる残りの5分間をまとめて時間を生み出し、学校にとっても児童にとっても裁量のある時間とする。この「時間」という学校経営資源を、体験活動を充実させる時間や探究的な学びを進める時間、他者との関わりを深める時間などに充てることにより、各学校では学習指導要領の着実な実施に加え、令和の日本型学校教育に求められている、児童一人ひとりが自分の興味・関心や学習上の課題等に応じた柔軟な学びを展開することができている。

#### ア 学校経営資源である「時間」の活用について

各学校では、「40分授業午前5時間制」で「生み出した時間」を生かした学校独自の創意工夫ある教育課程を編成している。「生み出した時間」とは、①1単位時間を45分から40分にしたことにより生み出した時間と②週時程等を工夫したことにより生み出した時間がある。

①1単位時間を45分から40分にしたことにより生み出した時間は、以下の通りである。

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
40分のコマ数	106コマ	114コマ	123コマ	127コマ	127コマ	127コマ

①②により、学校にとっても児童にとっても裁量のある時間を生み出すことができる。この「生み出した時間」をどのような活動に何時間活用するかについては、各学校で異なる。

【「生み出した時間」を活用した主な取組例】

学びの質の向上 を図る時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自分の興味・関心のある内容について調べたり、まとめたりする「探究的な活動」</li> <li>・教科等学習の中で自分の学習状況に合わせて児童自身が計画を立て、発展的な学習や補充的な学習に取り組む「自学自習」の活動</li> <li>・「表現力」「体力」等の学校で重点を置いて育成したい力を身に付けるための取組</li> </ul>
生活の質の向上 を図る時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週1回以上、異学年の児童や特別支援学級の児童と交流する時間を設定するなど多様な他者との関わりを充実させる活動</li> <li>・地域のボランティア活動への参加や、地域に向けた学習発表会等、地域や学校の実態に応じた活動</li> </ul>
教員のための 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議、学年会</li> <li>・OJT 研修</li> <li>・個々の教員に裁量のある時間（「先生マイタイム」等の名称を付けて、児童の作品を確認、教材研究、成績処理等に取り組む時間の確保）</li> </ul>

イ 「40 分授業午前 5 時間制」について

本区では 40 分授業に午前 5 時間制を組み合わせた「40 分授業午前 5 時間制」を導入することで、各学校の実態に応じた弾力的な時間割の設定や放課後の時間の十分な確保につながっている。

学校の実態に応じて午後の設定の仕方は多種多様である。

■生活時程例■

朝会	8:10~8:15
朝読書	8:15~8:25
朝の会	8:25~8:35
1校時	8:35~9:15
休み	9:15~9:20
2校時	9:20~10:00
休み	10:00~10:05
3校時	10:05~10:45
中休み	10:45~11:05
4校時	11:05~11:45
休み	11:45~11:50
5校時	11:50~12:30
給食	12:30~13:15
掃除 昼休み	
裁量等	
6校時	
帰りの会・ 下校	15:00~

例 1

※ 1 週間 29 コマ設定した場合

	月	火	水	木	金
6 時間目	26	27		29	00 タイム
7 時間目		28			

午後に「生み出した時間」を 1 コマ設定し、学校独自の取組を行っている。

例 2

	月	火	水	木	金
短時間学習					
6 時間目	26	27		28	29

短時間学習（20 分）を設定し、「生み出した時間」として、学習用情報端末を活用して個別最適な学びの取組や表現力を高めるための取組をするなどの時間として活用している。

例 3

	月	火	水	木	金
	集会	集会		ロング休み時間	
6 時間目	26	27		28	29

6 時間目の前に児童集会やその前の昼休みと合わせたロング休み時間を設定している。

## (2) 教育課程の内容は適切であったか

### ア 学習面

#### ◆結論◆

40 分授業でも各学校の授業改善と工夫により、児童の学力や学びへの意識は維持されている。また、学びへの意識に係る中学校の接続についても 40 分授業実施校と 45 分授業実施校で差はない。

#### (ア) 学力の保障

1 単位時間を 40 分（40 分×1015 コマ）としても学力を保障できているかについては、学習状況等の複数の教育データを基に検証する必要があるが、本評価書では、数値で把握できる学力について示す。

状況を把握するための指標と調査結果（全国学力・学習状況調査 教科に関する調査）は以下のとおりである。

【指標】全国平均値と同等程度を維持

学力各教科正答率 (%)	全国学力・学習状況調査結果			
	令和 5 年度		【参考】令和元年度	
	国語科	算数科	国語科	算数科
研究開発学校 (15 校)	74.3	72.5	71.2	72.8
全国平均	67.2	62.5	63.8	66.6
都平均	69	67	65	70

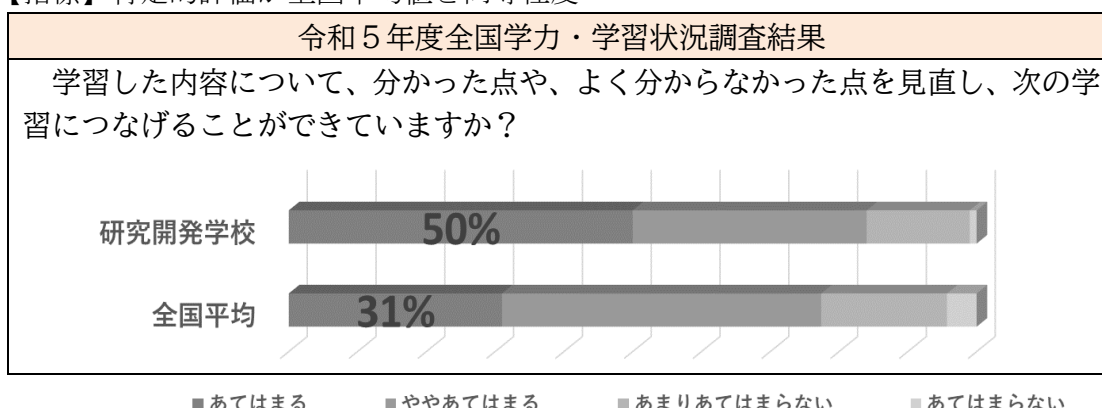
全国学力・学習状況調査の正答率を全国や東京都と比較すると、国語科、算数科において全国平均、東京都平均よりも高い平均正答率になっている。

また、40 分が 1 単位時間になる前の研究開発学校の学習状況を示している令和元年度調査は参考の通りであり、全国と研究開発学校との差は、令和 5 年度と大きく変わっていない。

#### (イ) 学びへの意識

自分の学習状況について振り返り、次の学習につなげる自己調整を問う質問に対して、研究開発学校の児童は全国よりも肯定的評価が高くなっており、特に「あてはまる」と回答した児童は 19 ポイントも高い状況である。

【指標】肯定的評価が全国平均値と同等程度

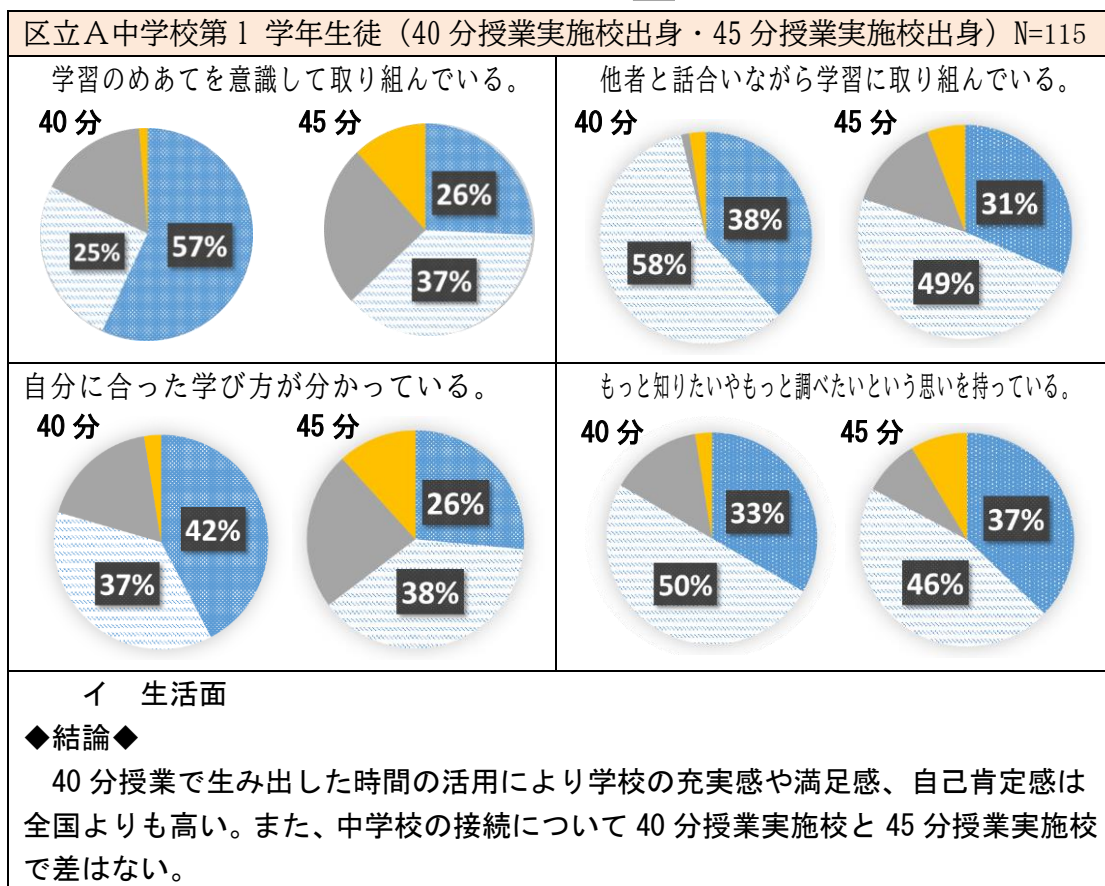


#### 中学校の接続

40 分授業実施校出身の生徒は中学校に入ると 1 単位時間が 10 分長くなることから、円滑な接続ができていないかについて A 中学校第 1 学年の生徒を対象に調査した。

調査結果からは、40 分授業実施校出身の生徒の方が、肯定的な評価が高い傾向にあることが分かった。

よくあてはまる あてはまる あまりあてはまらない あてはまらない

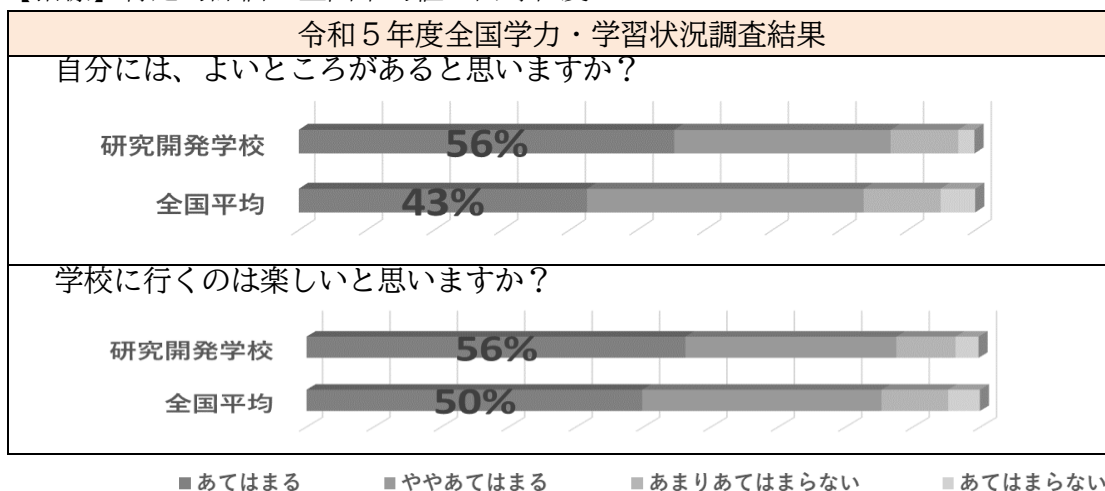


#### （ア）生活の質の向上

生活の質の向上とは、「学校の教育活動全体を通じて、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等をはぐくみ、子供たちのウェルビーイングの向上を図ることである」と捉えている。そこで、ウェルビーイングに係る観点から児童の意識調査の様子を分析した。

「自分には、よいところがあると思うか」「学校に行くのは楽しいと思うか」について、研究開発学校の肯定的な回答、特に「あてはまる」と回答している児童の割合は全国平均よりも高いことから、「40分授業」で生み出した時間を活用して教育活動、学校の充実度や満足度、自己肯定感を得ることにもつながっている。

【指標】 肯定的評価が全国平均値と同等程度



#### （イ）中学校の接続

令和5年度研究開発実施報告書（要約） p p.6-7 を参照



### (3) 授業時間等についての工夫

各学校では標準授業時数にプラスすることなく、生み出した時間を活用して、児童の学びの質と生活の質の向上を図るための各学校独自の特色ある教育活動に取り組んでいる。

例えば、肢体不自由特別支援学級の児童や他学年の児童同士の交流の充実を課題と捉えている油面小学校では、以下のように時間割編成を工夫し、生み出した時間の一部を「関わりを深める時間」として位置付けている。

【油面小学校の午後の時間割編成】

		月	火	水	木	金
5校時	11:50～12:30	21	22	23	24	25
給食	12:30～13:15	給食・歯磨き				
清掃	13:15～13:30	清掃		下校準備	清掃	
昼休み	13:30～13:45	昼休み			昼休み	
学習準備	13:45～13:50	準備			準備	
関わりを深める時間	13:50～14:10			下校		
6校時	14:15～14:55	26	27		28	29
帰りの会	14:55～15:05					
最終下校	15:45					

関わりを深める時間の年間4～5回程度は、教師一人一人が自分の得意なこと等を生かして教室（講座）を開設し、「アブラカタブラ教室」を実施している。本活動は、児童が自分の取り組みたいことを選択し、同じ教室に集まった児童と自然に関わりながら取り組むことで、異学年、男女、障がいの有無に関わらず、仲間と交流しながら関わりを深めることをねらいとしている。

このアブラカタブラ教室について、児童からは、「興味・関心のある教室（講座）に行き、活動したり学んだりできるのがよい」「先生たちや違う学年の子と関わることができる」といった声があり、休み時間においても特別支援学級の児童や他学年の児童と交流している姿が見られるようになった。

このように関わりを深める時間は、学校教育目標の1つである「心の美しい子供」（命・友達・学びを大切にする子供、人の立場に立って考えられる子供、思いやりのある優しい子供）の実現を図るために、児童にとって大切な時間となっている。

【アブラカタブラ教室】



異学年で新聞を囲んで「文字さがし」をしている様子



上級生に折り紙の折り方を教えている様子

## 2 指導方法・教材等

### (1) 実施した指導方法等の特徴

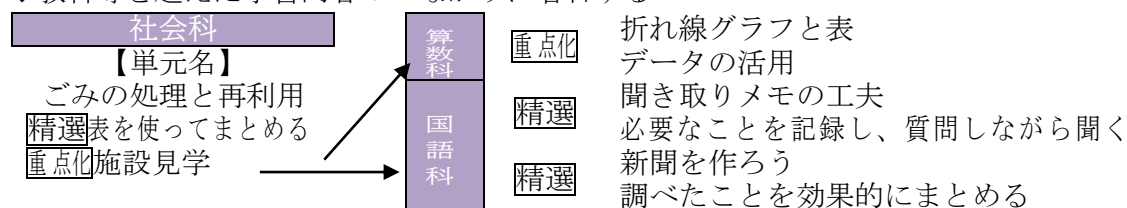
1 単位時間 40 分（40 分×1015 コマ）の授業を行い、学習指導要領を着実に実施している。授業をデザインする際は、45 分から 5 分間縮減するといった考え方ではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら指導内容を精選し、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいる。なお、以下の内容は 45 分でも大切な視点であるが、特に研究開発学校では意識して取り組んでいる。

#### ア 見直す

##### (ア) 年間指導計画の見直し（例）

教科等を超えた学習内容のつながりや、身に付いた力のつながりに着目し、重点化と精選により単元配列や指導時間を変える。

##### ◆教科等を超えた学習内容のつながりに着目する



##### ◆身に付いた力のつながりに着目する

理科				季節と生物の学習では、最初の単元「あたたかくなると」で問題づくりや観察計画の立案に十分時間をかける。	
単元名		指導時間（標準）			
4 月	重点化	あたたかくなると	5 時間（4 時間）		
7 月	精選	暑くなると	3 時間（4 時間）		
10 月	精選	すずしくなると	3 時間（4 時間）		
11 月	精選	寒くなると	3 時間（4 時間）		

##### (イ) 単元指導計画の見直し（例）

育成すべき資質・能力と学習活動の関係や、単元で働かせる見方・考え方に着目し、指導時間、学習活動の内容・順番・重点を変える。

##### ◆「知識・技能」に着目する

算数科 単元名：拡大図と縮図

確実ににかくことができるよう、内容を統合したり、分割したりする。

時	45 分の場合の単元指導計画		40 分の場合の単元指導計画
1	拡大図と縮図の意味・性質の理解	統合	拡大図と縮図の意味・性質の理解
2	拡大図、縮図の弁別		拡大図、縮図の弁別
3	合同な図形のかきかた（1 辺を基）	分割	合同な図形の拡大図、縮図
4	三角形や多角形の拡大図、縮図の分類		多角形の拡大図、縮図（1 点中心）
5	既習の基本図形の拡大図、縮図の分類		既習の基本図形の拡大図、縮図の分類
6	縮尺の意味と表し方		縮尺の意味と表し方
7	縮図の活動		縮図の活動
8	学習問題に対するまとめ		学習問題に対するまとめ

##### ◆「思考・判断・表現」に着目する

理科 単元名：ふりこのきまり

条件制御をしながら仮説に基づき、検証方法を立案する力を育むことが重要であるため、「調べる方法を考える」の時数を増加させ、振れ幅を調べる実験と 3 つの結果をまとめる活動を統合する。

時	45 分の場合の単元指導計画		40 分の場合の単元指導計画
1	ふりこの振れ方について問題を見出す	増加	ふりこの振れ方について問題を見出す
2	調べる方法を考える		調べる方法を考える
3	①ふりこの長さを変えて調べる		
4	②おもりの重さを変えて調べる		①ふりこの長さを変えて調べる

5	③ふれはばを変えて調べる	統合	②おもりの重さを変えて調べる
6	実験結果を整理し、振り子の きまりをまとめる		③ふれはばを変えて調べる
7	1秒で1往復する振り子をつくる 振り子のきまりについて、学んだことをまとめる		1秒で1往復する振り子をつくる 振り子のきまりについて、学んだことをまとめる

#### (ウ) 1単位時間の見直し(例)

「学び方を学ぶ」ことを意識した指導や学習過程を工夫したり、ICTを効果的に活用したりする。(参考: 冊子「40分授業午前5時間制を生かした創意工夫ある教育課程の開発」p.p.26-27)

### イ 学習活動の時間の確保のための工夫

#### (ア) 時間割の工夫

特に、体育科、音楽科、図画工作科、家庭科等の実技教科は学習用具等の準備、片付けの時間を考慮して同じ学年の時間割を連続するように編成する。

#### (イ) しくみの工夫

係活動や当番活動等の学級のしくみを生かし、学習用具等の準備・片付けの時間を削減し、活動する時間の確保につなげている。

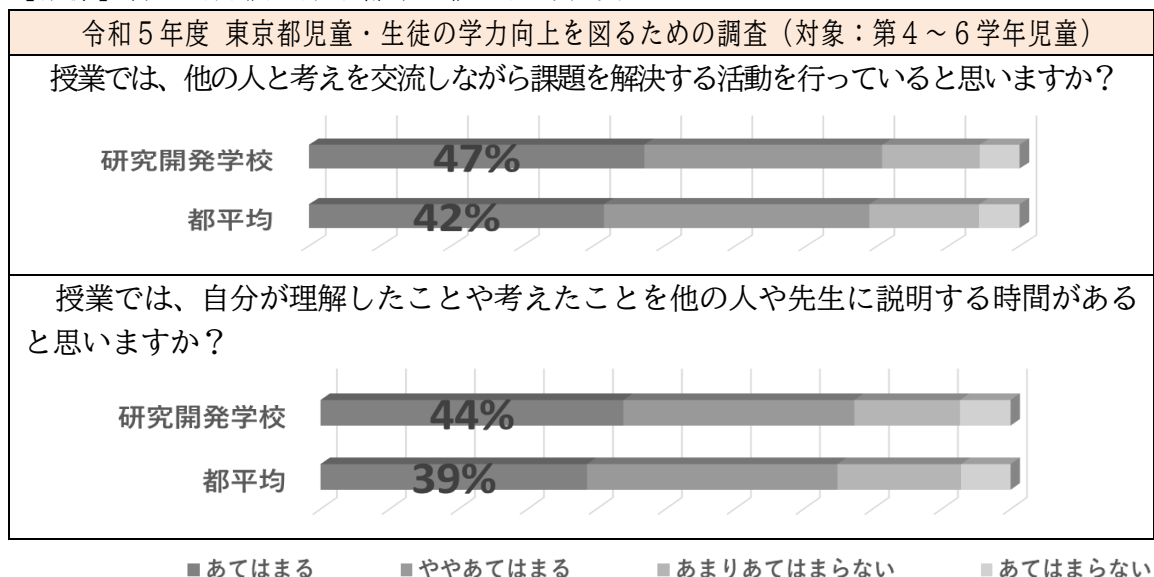
#### (ウ) 環境の整備

児童が学習で使用するものを出し入れしやすくしたり、学習用具等の準備、片付けが円滑にできるようにしたりするなどの環境整備を行う。

### (2) 指導方法等は適切であったか

授業での主体的・対話的で深い学びが設定されているかを問う質問に対して、研究開発学校の児童は東京都よりも肯定的評価が高くなっていることから、40分授業においても主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が図られているものと捉えている。

【指標】 肯定的評価が東京都平均値と同等程度



## Ⅱ 実施の効果

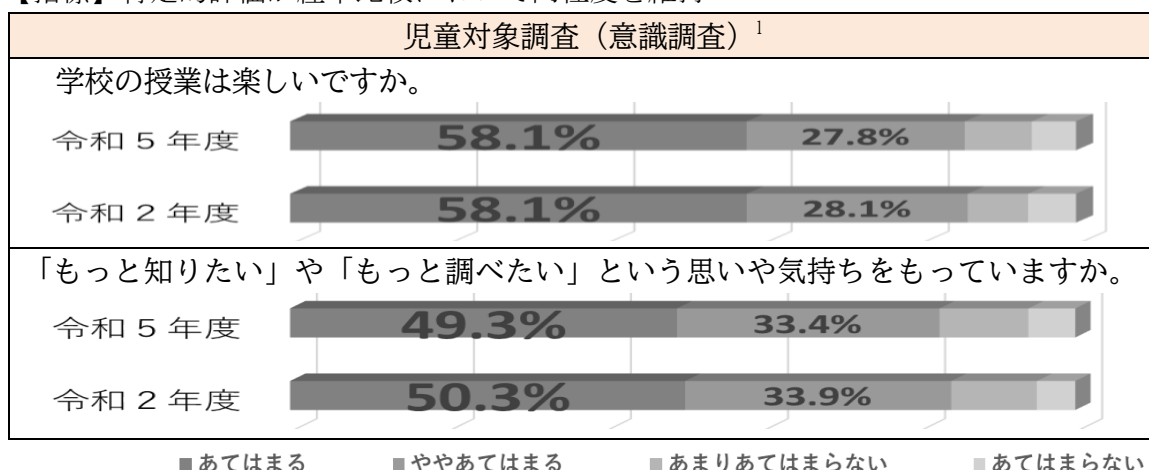
### 1 児童への効果

#### (1) 学びの質の向上

児童の学びの質を向上させていくためには、主体的に学習に取り組む態度の醸成が重要であり、授業が楽しいことが前提条件であると認識している。

調査結果からは8割以上の児童が「授業が楽しい」と回答しており、「もっと知りたい」「もっと調べたい」という気持ち(肯定的回答)をもって学習に取り組んでいることが分かる。

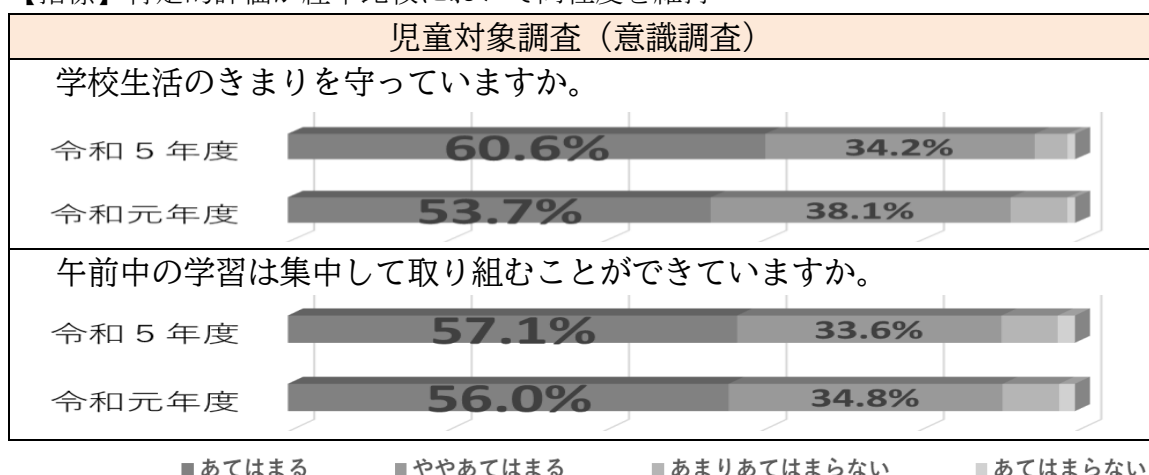
【指標】 肯定的評価が経年比較において同程度を維持



## （2）生活の質の向上

学校生活のきまりを守ることや午前中の学習に集中して取り組むことについて、肯定的な割合が令和元年度から約9割を維持していることから、生活の質の向上を図る上での基礎が培われている。

【指標】 肯定的評価が経年比較において同程度を維持

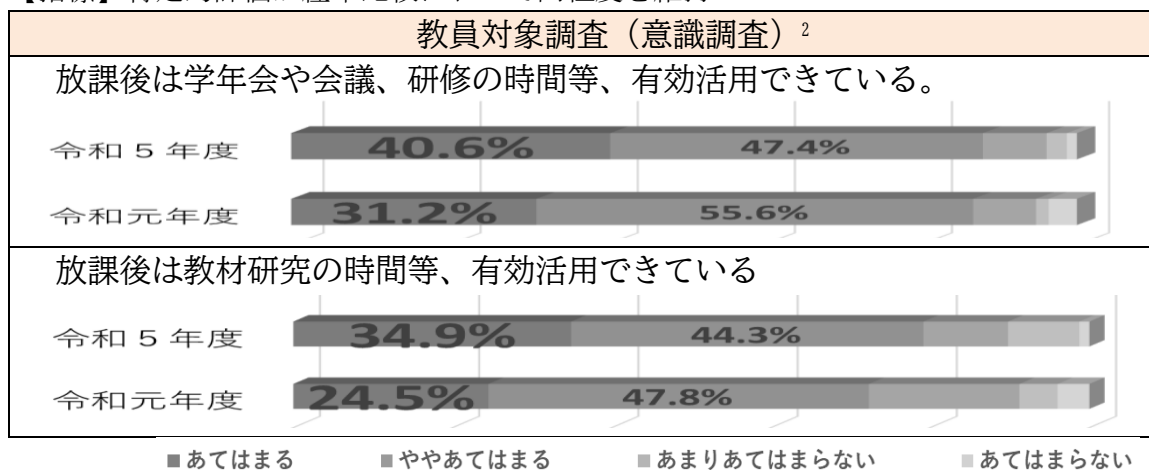


## 2 教師への効果

### （1）放課後の有効活用

「40分授業午前5時間制」で生み出した時間は、I 研究開発の内容 項番1（1）で示しているように、「教員の時間」として教材研究や学年会、研修等に活用することができる。

【指標】 肯定的評価が経年比較において同程度を維持



<sup>1</sup> 児童対象調査（意識調査）…研究開発学校の第4学年から第6学年の全児童を対象に、毎年10月に実施している意識調査

<sup>2</sup> 教員対象調査（意識調査）…研究開発学校の全教員を対象に、毎年10月に実施している意識調査



## (2) 働き方改革の推進

研究開発学校では、令和元年度から出退勤時刻を把握している。例えば、目黒区立N小学校における時間外在校等時間は以下のとおりである。

### ア 月毎の時間外在校等時間割合

生み出した時間の多くを教員のための時間として設定しているN小学校では、令和3年度と令和4年度の比較において教員の月当たりの平均時間外在校等時間を4時間程度短縮することができた。令和5年度4月から11月までの結果からは更に改善が図られていることが分かる。N小学校の教務主任からは、40分授業午前5時間制により、児童の下校時刻が早くなり、勤務時間内に教員の時間を確保することができることに加え、職員会議の精選や、教科担任制の実施等が、働き方改革の推進につながっていると報告を受けている。

このような傾向は、他校における月当たりの時間外在校等時間が短縮していることから、教員の働き方改革を一層推進することにつながっている。

N小学校 出退勤時刻調査					
◆令和3年度（4月～3月） （平均時間：35 時間 28 分）			◆令和4年度（4月～3月） （平均時間：31 時間 26 分）		
	45h以下	45h超～80h以下	80h超～100h以下	100h超	計
4月	52.2%	43.5%	4.3%	0%	100%
5月	65.2%	30.4%	4.3%	0%	100%
6月	52.2%	47.8%	0%	0%	100%
7月	95.7%	4.3%	0%	0%	100%
8月	100.0%	0%	0%	0%	100%
9月	56.5%	39.1%	4.3%	0%	100%
10月	78.3%	21.7%	0%	0%	100%
11月	56.5%	39.1%	4.3%	0%	100%
12月	82.6%	17.4%	0%	0%	100%
1月	91.3%	8.7%	0%	0%	100%
2月	73.9%	26.1%	0%	0%	100%
3月	56.5%	39.1%	4.3%	0%	100%

	45h以下	45h超～80h以下	80h超～100h以下	100h超	計
4月	60.9%	39.1%	0%	0%	100%
5月	73.9%	26.1%	0%	0%	100%
6月	65.2%	30.4%	4.3%	0%	100%
7月	87.0%	13.0%	0%	0%	100%
8月	100.0%	0%	0%	0%	100%
9月	63.6%	36.4%	0%	0%	100%
10月	72.7%	27.3%	0%	0%	100%
11月	81.8%	18.2%	0%	0%	100%
12月	90.9%	9.1%	0%	0%	100%
1月	95.5%	4.5%	0%	0%	100%
2月	90.9%	9.1%	0%	0%	100%
3月	86.4%	13.6%	0%	0%	100%

	45h以下	45h超～80h以下	80h超～100h以下	100h超	計
4月	90.9%	9.1%	0%	0%	100%
5月	77.3%	22.7%	0%	0%	100%
6月	77.3%	22.7%	0%	0%	100%
7月	100.0%	0%	0%	0%	100%
8月	100.0%	0%	0%	0%	100%
9月	86.4%	13.6%	0%	0%	100%
10月	81.8%	18.2%	0%	0%	100%

N小学校（R5年度）

- ・児童数（374）
- ・学級数（12）
- ・教員数（18）
- ※学級担任・専科教員・養護教諭
- ・教員平均年齢（38才）

### イ 目黒区で勤務している教員の声

#### 【R4教員公募<sup>3</sup>に応募し、R5に目黒区に異動した教員】

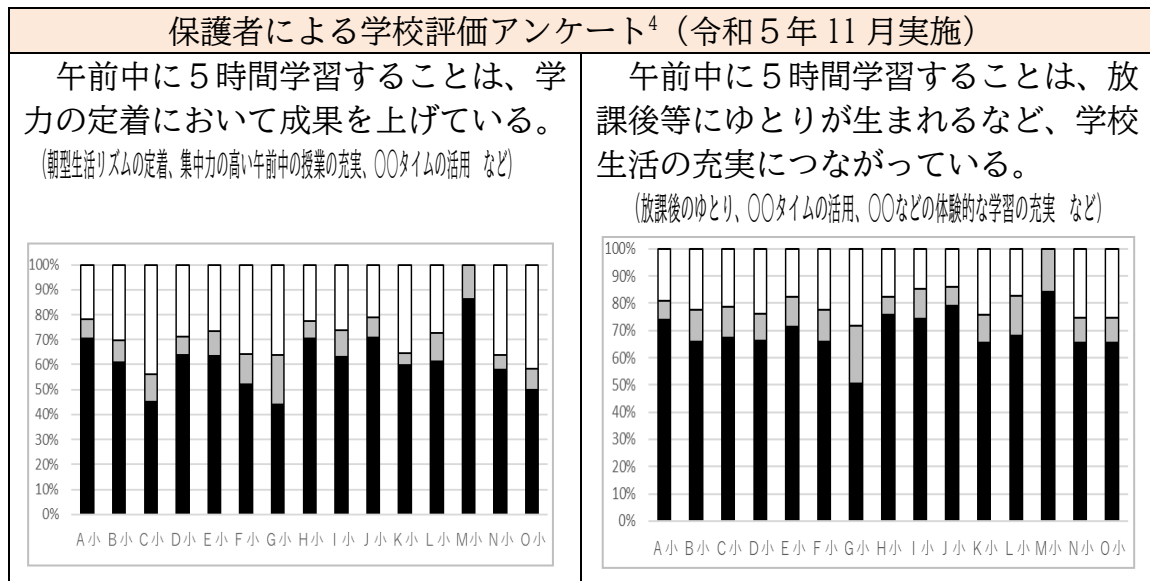
- 午後の時間を有効に使って授業力・指導力の伸長に費やすことができると体感しています。
- 目黒区は、40分授業午前5時間制に挑戦し、授業改善に取り組んでいます。時間を有効に活用できているため、働き方改革にもつながっています。区内での異動がとて多いことも、働きやすさを象徴していると思います。
- 働き方改革が進んでいると思います。40分授業午前5時間制により、個々の教員に裁量のある時間があるため、他区より授業改善を図ることができると感じました。

<sup>3</sup> 教員公募…教員の定期異動にあたり、自分のもつ能力や適正を生かすため、自ら選択した区市町村や学校へ応募し、異動できる制度

### 3 保護者等への効果

学校評価アンケート結果について、否定的な回答をしている保護者の割合は低いが、学校によっては「不明（判断できない／分からない）」と回答している保護者の割合が高い。これまで、目黒区教育委員会が発行する広報誌（きょういく広報）において、「40分授業午前5時間制」で生み出した時間の活用について周知するほか、各学校では、学校だよりや保護者会等で情報発信を行ってきた。保護者等には、一定の理解を得ているところであるが、さらに「40分授業午前5時間制」を推進していくためには、改めて、「40分授業午前5時間制」の趣旨を理解していただく必要がある。

新型コロナウイルス感染症対策が新たな段階に移行し、学校の活動も本来の形に戻りつつある今、学校公開等を積極的に行い、全教職員で作り上げた「40分授業午前5時間制」の教育課程のよさ、特色ある教育活動を保護者に改めて説明していく。



## Ⅲ 研究実施上の問題点と今後の課題

### 1 問題点

学校教育法施行規則第51条別表第1によらず1単位時間を40分としても、創意工夫ある教育課程の編成及び指導内容の精選・重点化を図ることで学力は維持、向上できている。また、40分授業にしたことによる残りの5分間をまとめて時間を生み出し、その時間を活用して個に応じた指導や協働的な活動、教員の時間等に活用することができている。一方、児童が自己のカリキュラム・マネジメントを図る取組については効果があるものの学校間によって取組状況に差が生じている。

### 2 課題

どの学校においても「自己選択学習の時間」を共通に設定するとともに、区立中学校（一部）においても小学校と同様に実施することで、さらに自己調整力の向上及び自分の生活や興味・関心等に応じた学びの充実を図ることである。

なお、「自己選択」は児童・生徒一人一人が自己の生活や学びをマネジメントする中で成り立つことを前提とする。

<sup>4</sup> 学校評価アンケート … 毎年度、児童・生徒、保護者、地域、教職員の四者を対象に実施している。研究開発学校では、独自設問として、「午前中に5時間学習することは、学力の定着において成果を上げている。」「午前中に5時間学習することは、放課後等にゆとりが生まれるなど、学校生活の充実につながっている。」を設定している。